

58、キバナセセリ

*Bibasis aquilina chrysaeglia* Butler

福山、♀、1971.8.16；万年、♂、1971.8.21

59、コチャバナセセリ

*Thoressa varia* Murray

千才、♂、1971.6.26；万年、♂、1971.7.10；；帯富、2♀♀、1972.7.6

60、コキマグラセセリ

*Ochlodes venata herculea* Butler

住吉、♂、1971.7.30；帯富、2♂♂、1972.7.6；2♀♀、1972.8.6

3、おわりに

以上のように、アゲハ、シロチヨウ、タテハ類についてはその全道を、ジャノメ、セセリ類は2～3種程度を残すだけであるが、シジミ類にいたっては未確認種が3分の2ほどあり、今後徹底した調査が必要である。

さて、私達が住む浦幌町の自然は、今どんな状態にあるのだろうか。河川は改修され、洪水は少なくなっているが、それと同時に単調な一直線の流れには、魚の住む場所も減少している。山林は抜採が進み、たとえ植林されてもトドマツ、カラ

マツなどの針葉樹林となり、植物相は単純化するそれによって、昆虫相も単調になり、それを餌とする鳥類などにも影響して、生態形はアンバラスになり破壊される。

そんなことを考えるとき、現在残されている浦幌の自然を、たとえわずかでも知り、いつまでも記録しておく必要性を感じずにはいられない。それはまた、私達に与えられた課題であろう。またその指導機関として、郷土博物館が益々充実した活動をされることを期待する。

(浦幌町農協企画室勤務)

参考文献

- ① 横山光夫 『原色日本蝶類図鑑』
- ② 白水 隆 『原色図鑑日本の蝶』
- ③ 藤岡知夫 『図説日本の蝶』
- ④ 古川晴男 『昆虫の事典』
- ⑤ 京浜昆虫同好会 『新しい昆虫採集』(上)
- ⑥ 浦幌町史編さん委員会 『浦幌町史』
- ⑦ 浦幌消防署 『昭和47年気象概況表』

注 北海道特産種とは、日本においては北海道のみに生息しているものをいう。

〈シンポジウム〉

# 中浦幌駅遷所と中川北松 I

博物館報告編集局・編

期 日：1972年12月23日(土)

会 場：十勝郡浦幌町字留真 田中 利氏宅

出席者：中川政雄(中川北松長男)

：中川シズ(中川北松長女)

：田中 利(現駅遷所所有者)

：高松孝行(浦幌町教育委員会社会教育係長)

聞き手：山崎 徹(北海道池田高等学校教諭・池田町史編さん室)

：後藤秀彦(浦幌町郷土博物館)

山崎 明治29年には、十勝では福井県から随分十勝に入っています。近くで言いますと池北線に高島というところがござりますが、あそこの「青山」

という団体が福井県なんです。

中川シ やはり父親がつれて来た人がいるのです。カマドをもたせた人が30何軒かあるんです。

山崎 池田はですね、およそ70戸が大野郡の人もいれば坂井郡の人もいる。夕べたまたま古いお寺を十勝で訪ねた時に、そのお寺は福井県のお寺でしてね、珍しく浄土真宗の高田派のお寺なんです。29年にむこうから来た、ご先代の方の動機といいますかね、なぜ北海道に渡ってこられたのでしょうか。

中川政 私のところですか。やはり北海道にね、土地をもらって百姓をやるつもりで。まあ、北海道なら土地はいくらでももらえるというようなことで乗り込んで来たんです。

山崎 その時に募集があったんですね、もちろん。

中川政 ないです。

山崎 単独入殖ですか。

中川政 いや、もちろんそういうその、まあ広報か何かが出たから来たんでしょうけど。だけれどもその募集の仲間に入って来たのではないのですだからもう盲滅法に来て、大津にあがって尋ねる所もないし、「どこか百姓をやりたいのだが、頼れる人があるか？」ということで聞いたところが、「熊谷という人が土地を沢山もっているから、そこへ行って相談してみたらどうだ。」と言われて熊谷さんのところへワラジ脱ぎしたんですね。

山崎 そして、そうしますと熊谷さんのところの土地をどういう形で耕やしたのですか。

中川政 いきなり監督になったんです。

中川政 違う、違う。

山崎 ああそうですか。それはこの地ですか。

中川政 いやいや、ここからもう大津の境付近の十勝川の縁です。「浦幌」の発祥の土地ですね。

山崎 ああ、そうですか。そして、その次にここですか。

中川政 そうです。

山崎 ああ、そうですか。その一番先に入った熊谷農場に入って来て、そこは渡島から来たんですね。福井→渡島→熊谷農場と。それが30年ですねここ（浦幌町字留真）に来たのが。

中川政 ここは明治41年ですね。

山崎 そうすると、およそ10年間熊谷農場で小作をしていたということになりますね。

中川政 小作ってね。まあ、最初小作に入ったしその頃は単独で来たものですから。それで熊谷さんの所へ行って話をしたところが、「土地を見つけるのに来たのだけれども、どこかいい所がないだろうか。」ということで話をしたところが、「せっかく来たのなら俺の農場を開かないか。」ということで熊谷農場でワラジ脱ぎをして、そして一人で1年やったんですね。そして、内地に家族を置いて来たものから…。

山崎 そうしますと一人で。

中川政 本当に一人、来たんです。

山崎 その頃は未婚でしたか。

中川政 未婚です。そうして、内地の父親が危篤だという電報が来たので、ひとまず帰ろうと思っ

て熊谷農場の大將の所へ行って「路銀を貸してくれ」と言ったんですね。そうしたら、「今から行くといったって、10日も15日もかからなくては行けない所へ行ったって間に合わないからいっそそれは死んでから、どうせもうだめなのだろうから。死んだら家族を連れに行ったらどうだ。」こういうことを言われて止められたんですね。それで「都合で行かれないから。」ということで電報で返事をして行かなかった。間もなく亡くなったものですから、「後始末に行つてこなけりゃならぬ」ということでついでに「お前、来るという者があつたら連れて来て俺の農場開くのを手伝ってくれ。」ということで「わかりました。」ということで行つたんですね。

山崎 それが、何年頃のことでしょうか。

中川政 31年か32年ですね。

山崎 そうすると熊谷に入ってから1年後ぐらいですね。

中川政 1年後ぐらいです。

山崎 やはり、大津からハシケに乗って…。

中川政 ええ、そうです。

山崎 函館に寄って、三国港（福井県）に帰つたんですね。

中川政 ええ、そうです。

山崎 そうして、31年に帰ってすぐ折り返し、その年のうちに北海道へ戻つたのでしょうか。その時に今言われたように仲間をつれてこられたのですか。

中川政 はい24、5戸つれて来ているはずですよ。

中川政 その時に、朝日の、私の母が、父の嫁さんが、朝日の方から出ているのですが…。

山崎 ああ、そうですか。つれて来た時に、その中川さんがつれて来たということになるのですか？

中川政 私の父が、若い時から国でも土地が少ないものから。

山崎 何男坊だったのですか。

中川政 長男です。長男だけれども、作る土地が少ないものだから、足尾銅山に働らきに行つていたんですね。栃木県の足尾銅山に。そこに2、3年もいたんではないのですか。それで友達が十分できたんですね。その連中が、私の父が「俺は今度北海道へ行って百姓やるんだ。」ということと言つたら、「俺も連れてけ」「俺も連れてけ」という

ことで、そこから3、4人来たんですよ。  
山崎 そうしますと、生まれは何年になるのでしょうか。

中川政 明治2年。

山崎 明治2年。そうして明治29年に来たということですから、27、8才ですね。そうしますと足尾銅山にいた頃は20才少しぐらいの…。

中川政 17、8才からね。

山崎 福井県で先代からずっと農家ですね。その長男がなぜ足尾銅山なんかに行ったのでしょうかね

中川政 やはり、土地も少ないし、弟達もいるし親も健在だったし、だから働いていくらかでも家計を助けようというところですね。

山崎 今のような話を十勝の他のところでも聞いたんですがね、やはり大津に明治31年頃に入って来た人が…。この人が明治33年に入って来ているのですが…。ちょっと家の家系ですね。お尋ねしておきたいのですが…。先代の明治29年に北海道に渡った方が、中川北松ですね。そして、奥さんがあき。そうして、その間に生まれた方が…。

中川政 私が長男です。これ(中川シズ)が長女です。その次が次女が梅乃。それからイクエ。私の弟に禎一郎。その次が三郎。

山崎 そして、この北松さんとあきさんが結婚な

されたのはどこになるのですか。

中川政 それは熊谷農場です。船の中で一緒になって、朝日の家族と一緒に…。

山崎 朝日というのは、朝日浅吉…。

中川政 朝日 昇のお爺さんだ。

山崎 あきというのは、元は朝日あきになるんですね。船の中といいますのは、29年の。朝日家と中川家というのは一緒に渡島に…。

中川政 いや、渡島へ。いや、それは30年です。朝日らと一緒に来たのは30年で、29年には独身で自分の弟と渡島に渡った。そこで1年百姓をやった。それから十勝をめざして来たのですから…。

山崎 そうすると、その年ですね。十勝へ入殖した年に結婚されたんですね。

中川政 そうだと思います。春に来て秋に結婚したのですね。

山崎 そうですか。後からまたお聞きしますが、駅通にかかわりある方は…。

中川政 私ら。ここに載っている兄弟はここで生まれたり…。

山崎 まず、あの、中川(政雄)さんは駅通で生まれたのですか。

中川政 いや、駅通ではないです。熊谷農場です

山崎 ああ、そうですか。

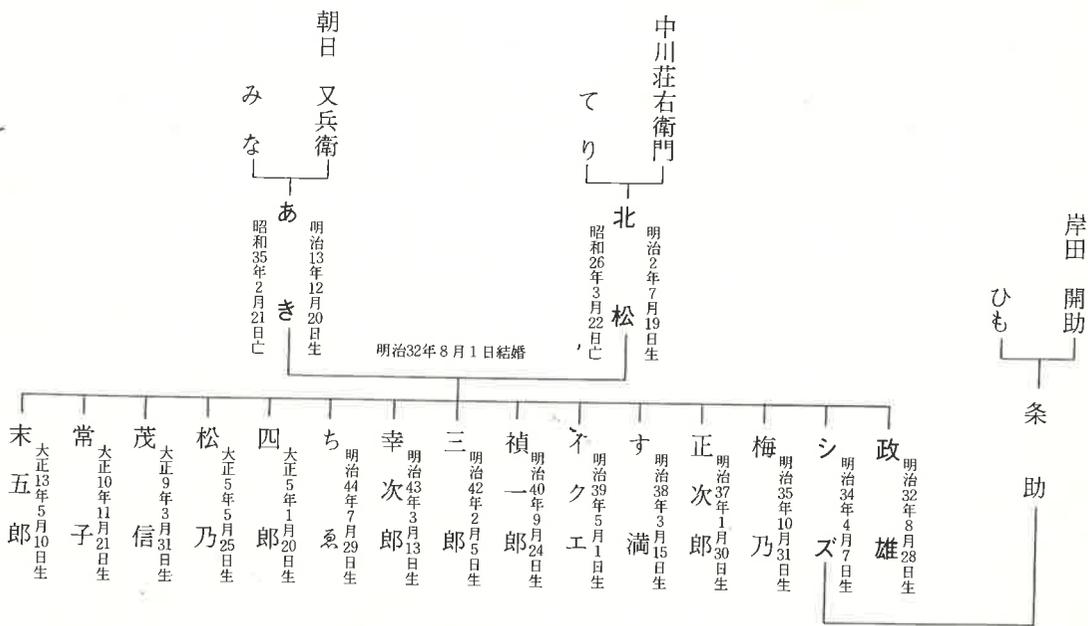


表1 中川北松家系図

大正9年6月25日結婚

中川シ 私も熊谷農場です。1年生の時ここに来たんです。

山崎 そうしますと、熊谷農場で生まれたのはどの方達ですか。三郎さんから下がここで生まれたのですね。あとで戸籍の方でも調べさせていただきます。そういうことが非常に貴重なので…。先代の方の写真なんか、その時代の写真なんかありますね。

中川政 ないですよ。

中川シ 誰か持っているけどね。

中川政 町会議員でなく「総代」という時代があったんですよ。

山崎 洋服着ている写真ですか。

中川政 洋服着たことのない親父でした。

中川シ 和服ばかりで。

中川政 牧畜やっても着物着たまま馬に乗ったり、馬などでたり。

中川シ 天皇陛下の前まで着物着ていました。

山崎 で、今、シズさんはどちらに嫁つがれて。

中川シ いえ、嫁ついだんじゃないんです。中川なんです。私は、もう、小さい頃から弱かったものですから。

中川政 小さい頃から弱かったものですから、母の従兄弟を養子にもらったんです。そして、それと一緒にになったんです。

山崎 ああ、そうですか。

中川シ そして、ここへね。ここを離れて留真の温泉をあげるからそこでやりなさいと言われて、3年やったんです。でも体が弱いと、同じ川を7回も越さなければならぬし、医者のも悪いらしいのでまた、ここへ戻ったんです。その時は戻って兄さん（政雄氏）らも結婚したから下浦幌の農場へ行ってね、私がここでしばらくやって…。

山崎 そうすると北松さんの駅通のあとを実際に引き継いだようなかたちになったのはシズさんですか。

中川シ はい、そうです。

中川政 だけれども名儀は変わらないです。父の名前なんです。ただ、子どもに業務をやらせたというだけで…。

中川シ うそ、うそ。名前には…。ただ、そういうふう言い渡されたんです。

中川政 それで、これの代でもう駅通は廃止にな

ったんです。それが何年だか記憶がないんだ。

山崎 シズさんは失礼ですが、お生まれは何年でしょうか。

中川シ 34年です。4月7日です。

山崎 で、結婚されたのが…。

中川シ 20才の時です。

山崎 その養子の方は血縁関係になる方ですか。

中川シ はい、いくらかね。

中川政 母の従兄弟ですから。

山崎 ああ、そうですか。そしてお子さんが。

中川シ 沢山もちましてね。現在4人ですね。

山崎 ああ、そうですか。長男の方が…。

中川シ はい、戦死しました。

山崎 そうしますと、その長男の方に駅通のことは関係なかったんですね。

中川シ 長男はここを1年生の時に、上浦幌の農場に行って、「監督がてら行きなさい」と言われたので行ったんです。その後、川畑さん、田中 利さんのお父さんが、もうその時廃止になりましたから駅通でなくて「川畑旅館」にしたんです。

山崎 仲々、ちょっと複雑ですね。

中川シ はい、もう今で言えば4代にも5代にもなります。

山崎 そうすると政雄さんはこの駅通に関係しなかったんですか。

中川政 いや、あります。

山崎 どういうふうな。

中川政 私はね、その熊谷農場から明治42年に確かここに来たはずですが、ここ完成していなかったし。

山崎 で、駅通ができたのはそうしますと、いつになるんですか。

中川政 41年です。

山崎 明治41年ですか。

中川政 明治41年に許可になったんです。

山崎 名前、なんという名前の駅通でしたか。

中川政 中浦幌駅通ですね。

山崎 中浦幌駅通ですね。明治41年ですか。ええとですね、その筋の書物には明治36年4月に始まっていることになるのですがね。

中川シ それは違いますわ。

山崎 駅通の前に「旅人宿」のようなことをしませんでしたか。

中川シ ここは全然しません。天も見えないほど

繁ったヤブの中に新しい家がポツとできたんです。

山崎 明治41年ですか。月はわかります。

中川シ 6月の末です。ブドウの実がこれくらいになっている頃。

中川政 許可になったのは、40年か41年だ。

山崎 そうすると36年というのは全然合いませんね。

中川政 合いません。吉川(利昌)さんあたりが36年ではないだろうか。

山崎 いや、ほか、下浦幌の方は35年なんですね。昆布刈が32年、上浦幌が39年の8月、上川上が昭和4年、中浦幌(留真)というのは明治36年4月という、これ官庁の記録なんです。

中川シ 4月ではないけどね。

中川政 官庁の記録？

山崎 はい。そして大正年間の記録も細かくありましてね。例えば、中浦幌の場合には牧場、畑それから敷地、合計 268,838坪、私馬5頭、官馬が0、それから管理人の北松さんは月手当6円貰っている。

中川政 36年は、それはうそだな。官庁の記録がおかしい。

山崎 ただ、行き違いというのがありますね。その頃にここで駅通をやるべく申請書を出していたのかもしれないんです。ただ、それにしてもね2年ぐらいの違いにしても他の場合には36年ぐらいに許可になる場合には34年頃からぼちぼちその出し始めるんですよ。と言うのは駅通というのは官設ですね。膨大な金がかかるんです。1年ぐらいの申請では許可にならないです。2年も3年もここを通る者がいるからとか、林道つくらなければならぬから、奥地に入殖者がいるから、絶対に留真とにかく駅通が必要なんだからということをして2年ぐらい陳情するわけです。今のことばで言えば。そして2年後にやっとその国費が出てその頃の金で何百円かがですね。

中川シ この古い駅通は建てていただいたのではなく自分で建てたんです。

中川政 聞かされているのはね、私の親父は熊谷農場へ入ったんだが24、5戸のその者を連れて来ているものだから、それらに土地を貰ってやらなけりやというので支庁へ毎年お百度参りしたものです。

山崎 この24戸は熊谷農場に入らなかったんですか。

中川政 そう入ったんです。入ったんだけど小作ではなく自作にしてやりたくて。そのために支庁通いをして。支庁では非常にうちの親父は、「北松さん。あんたは自分の土地はどうなんだ」「いや私はいつでもいいんだから。とにかく一緒に来た者達に土地を与えてやりたいんだから、よろしく頼む」と言うので、非常に信用を得たものですか。駅通も自分から頼んだのではないが、「まあ、君、留真に駅通を一つ設置したいと思うんだが、やってみる気はないか」と、こういうふうにし支庁の、今で言えば地方課長かなんかから言われて、そして「どういうものですか？」と言ったら、「こういうもので、牧場は与るし、こういうことで廃止になる時はそれは君の物になるのだからやらんか。」そういうことを言われたので「それじゃ、ひとつやらせてもらいますか」と言うことで。それが36年かもしれない。

山崎 さようど、36年という年は各地に十勝で駅通ができた時なんです。と、言いますのは、例えば本別、苫務、足寄太、それから池田の蓋派(けなしば)。そういうような足寄・本別・池田・浦幌管内にぞろっと35、6年にできているんです。

中川政 活平にないですか。それは同じ年ですよ

中川シ いや、1年早い

山崎 活平39年8月です。そうしますと1年早いと言いますと40年になりますよ。

中川シ 1年早いんだと聞いていたけど。家で来た時はもうむこうできていたんだよね。けど、お客を泊めると言うことは…。

中川政 いや、できていない。俺はお祭にお婆さんと一緒にお婆さんの母親の里に遊びに行ったがそれは駅通ではなかった。今の太助さんがいる所にいた。草小屋にいたのを記憶している。

中川シ 私も行ったけどね。

中川政 おまえが行くようになったのは、俺の行かなくなってからだから、もう駅通になっている

中川シ 観音坂にさしかかるとね、「キツネが出てくるから眉毛を濡らせ。これを数えられると騙される。」とね。何回でも会うんですよ。観音坂、三枚平という所は、この当時、もう熊の巣みたいな所です。

中川政 そうすると、どうもそこで喰い違いがあ

るけれども実際とは違うんだね。

山崎 そうしますと、北松さんが30年にここに入殖をして、ここで駅通を始めたというシズさんの記憶は41年の6月だと言うんですね。

中川政 私が記憶あるのは、駅通の許可証を私見たことあるんです。それから宿帳の帳面も見たことあるんです。それが41年に起こすと書いてあるんですが…。

山崎 41年に起こすと書いてあるんですか。

中川政 それだから、それは事実はそうなんだが支庁の書類はどうなっていたか。

山崎 この建物を見ますと、始めから、まあ駅通の形なんですよ。ただ、ちょっと大きいんですがね。あの、将来駅通にするために河西支庁、先ほど政雄さんのお話は河西支庁に信用があったというのは、第三課に明治36年、遠藤さんという課長がいたんです。遠藤課長という。この遠藤課長という人から「やってみないか」と言われたんだと思います。

中川政 うん、そうですね。

山崎 だから、そういうことを言われた時に既にもしかすると北松さんはここで駅通の、数年前から旅人を泊めていたかもしれないですね。

中川シ ここは全然家も、家どころか何もなかった。

中川政 許可になってから始めて新しい材料を集めてやりだしたのだから。

中川シ 私が1年生の時。

中川政 私はその家のできあがるまで熊谷農場にいたんです。お婆ちゃんやお爺さん達と一緒にいた。

中川シ 私は妹と弟と来たんです。その時の写真があったのだけどね。

山崎 そうすると、明治41年に駅通ができたとしますね。その時に最初にここに住んだのはあの先代の中川北松さん、奥さんのあきさん、それからシズさん。

中川シ 私と妹と弟と。二つの弟をおぶつたのを覚えているんです。そうして、写真を撮ってね。

山崎 弟というのは禎一郎さんですか？

中川シ はい、そうです。そうして、ブドウの芽を珍しくて取ってね…。

山崎 そうすると4人ですか。お父さんとお母さんと背中の子と。そして、その時のお兄さんはま

だ熊谷農場にいた。そういうことですね。そうすると、そのままシズさんはずっと、一時留真の方に川越えして行ったけど…。

中川シ それは17才の時です。

山崎 17才の時行ったけど、しかしその後大変なので再びここに戻ってずっとここで…。

中川シ 戻っているやさき、駅通が廃止になったんですね。

山崎 いつですか。

中川シ 私が27・8の時です。川畑さんがその後に入られた。

田中 川畑市松が北松さんから受け継いだのが昭和3年。

山崎 引き受けたというのは？何を引き受けた？

田中 ここを買い受けた。

山崎 駅通を引き受けたということではないんですね。

田中 駅通はもっと早く廃止になっていたんですね。

中川政 廃止になってからこの妹がまだ大分おつたのです。

山崎 昭和3年。即ち、一応昭和3年に廃止としますと昭和3年の廃止とともに川畑市松にこれは売り渡したんですか。

中川政 そうです。

山崎 それからシズさんどうしました。

中川シ それから上浦幌の農場のね「監督がてら行ってやれ。」って言われて行ったんです。

山崎 監督というのは誰が？

中川シ 農場の監督がてら。

山崎 ご主人がですか。

中川シ はい。

山崎 ご主人の名前は？

中川シ 中川条助です。

山崎 熊谷農場の管理に？

中川シ 父はね。

中川政 いや、熊谷ではないです。

中川シ いや、あすこらももとは熊谷じゃないの

中川政 うちの親父が人から買って、橋本農場だ

山崎 そうすると中川条助さんは昭和3年に上浦幌の何農場へ行ったんですか。

中川シ 中川農場です。

山崎 中川農場ということとは？

中川政 橋本という人から買ったんです。

山崎 ああ、そうですか。そうすると自分の実家に帰ったようなものですね。

中川政 まあ、そういうことだ。

中川シ 私はお嫁に行かないのですから。

山崎 ええ、行かないのですけど。ここから上浦幌の父親の農場へ行ったんですよね。そういうことです。糸助さんは、おじさんの農場の管理人になったということですね。

中川シ まあ、そんなのです。

山崎 そういうことですね。

中川シ それ前にも、管理人はいたのですけれど

山崎 シズさんも一緒に行ったんですね。

中川シ はい。

山崎 その時シズさんはもう何人お子さん…。

中川シ 子どもね。長男・次男。それから清子と三人でした。

山崎 ああ、そうですか。

中川シ そうしてそこでしばらく居たんです。農場にね。

山崎 そうするとあれですか。中川さん。成立、作った動機というのは河西支庁の第三課で「おまえ、やってみないか」ということはわかりましたけれど、「やってみないか？」ということ、ここが必要だったから「おまえ、やれ」ということですね。

中川政 そうですね。

山崎 ここに駅通が必要であったという理由は何ですか。

中川政 下浦幌の、今の市街ですね。現在の市街からここまでちょうど3里半ですね、昔の。3里半なんですよ。3里半でこれから活平という朝日の駅通まで3里ですよ。

山崎 下浦幌へ3里半。活平へ2.28里。即ち2.3里くらいですね。

中川シ ちょっと軽かったですね。

山崎 おかしいなあ、どうしても。こっちの明治43年の、私が札幌へ行ってですね、道庁の向いに赤レンガがありますね。あそこの書類を見て来た時も、36年4月29日中浦幌駅通、留真、上浦幌へ2.28里。下浦幌へ3里半と書いてある。36年4月29日と。

中川政 それが本当でしょう。里数は。

山崎 成立年月日ですよ。41年と36年なら随分違う。

中川シ 私が浦幌第一小学校1年生の時、4月から6月まで入って、学校へ行っていたんですよ。

中川政 36年あたりは、うちの親父はまだ下浦幌で…。

山崎 中浦幌ということばはこしかないんですよね。

中川政 朝日のところも中浦幌だ。

山崎 今の活平も中浦幌といたしましたか。

中川政 はい。

山崎 今の活平が39年8月。ははあ、ここでいう中浦幌というのは上浦幌をいうのかな。

中川政 いや、それから奥にあるんですよ。北村川上の北村。

後藤 貞敏さんですか。あれは昭和4年なんですよ。

山崎 あれは違うんですね。下浦幌へ3里半ですね。間違いなく。それは間違いありません。なぜならば、下浦幌駅通は大津へ5.18里と書いてあるこれはやっぱりここなんですよ。36年4月29日というのはここなんです。

中川シ そうしたら、来るより早く引っ越して来たことになる。

山崎 5年も記憶違いということはないと思うんですがね。

中川シ それは私、1年生の時ですから。

山崎 もし、これが違っていたら、ちよっと大変なことなんですよ。その筋の記録がこれで過去100年間違って来たことになる。

中川シ しかし、どこでそうなったのかね。

山崎 いや、私も調べなおしてみます。

中川政 41年に起こすという記録は私、頭にあるんですよ。宿帳なんかの帳面が。宿帳1冊作ったら廃止になるまで新しくしなくてもいいぐらいなんだ。お客さんないものだから。

山崎 活平ね。活平ね。上浦幌。上浦幌。しかし上浦幌であれば本別へつながっているんだから。

中川政 本別では新津という人がやっていたんだからね。

山崎 本別の駅通は古いんですよ。明治33年ですから。39年であればどうなんですか。39年でもおかしいんですか。

中川政 39年であれば40年に着手して41年に開業したということで大体あうけれども36年はこれはもう全然違いますね。

山崎 全然違いますか。見たというのはこういう

のですか。

中川政 こういうのではないんだ。記憶にないんだ。

山崎 じゃあ、シズさんの記憶をもし、2つの時の記憶ですか。

中川シ いや、2つの禎一郎をおぶって、守りをしたんです。1年生の時ここに来たんです。

山崎 小学校の1年生というと…。

中川シ 8つです。で、それ前は第一小学校に、ここへ6月に来る前はいたんです。

山崎 シズさんのお生まれは何年ですか。

中川シ 34年です。

山崎 34年ですよ。

中川政 41年だ。これが1年になったのは。

山崎 41年ですね。そうすると記憶は間違いないですね。

中川シ 私、それは間違いないです。熊やら狐やらで恐くなかったから忘れない。アイヌやね。

山崎 アイヌいました。

中川シ アイヌの世話もしました。それはもう忘れません。

中川政 私より1年先に来たことは覚えている。

山崎 政雄さんが残った理由は何ですか。

中川政 こっちへたって畑も馬もないし。

中川シ まだできあがっていないんです。

中川政 私のお婆さんと父の弟が2人いるんです  
(次号へつづく)

## 受 贈 図 書

○ 9 月

「新しい道史」10—4 (北海道史編集所)

○ 10 月

「第7回特別展 北海道農業のあゆみ展」(北海道開拓記念館)

○ 1 月

「市立旭川郷土博物館所蔵品目録Ⅱ」・「市立旭川郷土博物館研究報告8」・「博物館だより7・8」(以上旭川市立旭川郷土博物館)

「亜鉛鉄板16—7・16—9」(鉄鋼産業研究所)

「初山別村史」(初山別村)

「チライベツ遺跡」(羽幌町教育委員会)

「立正大学文学部論叢41—45」(立正大学文学

部)

「開拓記念館だより」(北海道開拓記念館)

「名寄叢書1 ナヨロの植物」(市立名寄図書館)

「浜益村小史」(浜益村)

「釧路市立郷土博物館々報219」(釧路市立郷土博物館)

「続函館市史資料集2」(函館市史編纂事務局)

「史峰 創刊号」(新進考古学同人会)

「伊茶仁B地点」(標津町教育委員会)

「浜崎遺跡発掘調査報告」(埼玉県遺跡調査会)

「市立旭川郷土博物館月報42」(旭川市立旭川郷土博物館)

## 編 集 後 記

『浦幌町郷土博物館』第2号をお届けします。昨年12月に創刊号を発刊して以来約2ヶ月をへて第2号を発刊できましたことは、館関係者のみならず、寄稿いただいた浦幌町農業協同組合企画室の円子紳一君らの協力によるものです。ここに銘記して感謝申し上げます。

P5以下に〈シンポジウム〉「中浦幌駅通所と中川北松」を掲載しました。このシンポジウム開催にあたっては、昔日の思い出話を語ってくれた中川政雄・中川シズ・田中利の三氏および、聞き手としてご協力をいただいた山崎 徹氏に厚くお礼申し上げます。このシンポジウムは、第3号以下にも続編を掲載する予定ですのでご期待下さい。

この小冊子のために読者からの幅広い投稿を館では心待ちにしています。(H・G)

1973年2月20日 印刷

1973年2月25日 発行

編集後藤 秀彦

発行責任者 野 沢 貞 男

発行所 浦幌町郷土博物館 (089-56)

北海道十勝郡浦幌町東山町2番地

印刷所 大同出版紙業株式会社

北海道帯広市西7条南6丁目